家電製品協会認定センター

資格制度の受験者が増加

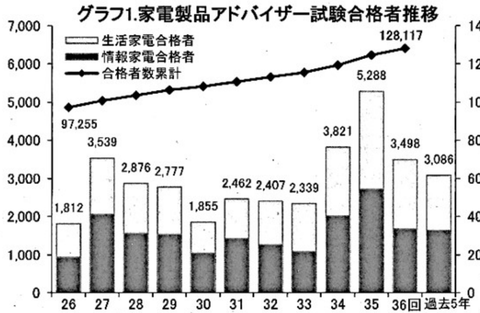
家電製品協会認定センターは業界の基盤となる人材育成を目指して01年度にスタートした資格制度「家電製品アドバイザー」と「家電製品エンジニア」、16年度に始めたスマートハウス普及人材育成が目的の「スマートマスター」資格の企画運営を行っている。全国統一認定試験は3月と9月に実施。受験者は5年前の2倍に増えた。業界のボーダーレス化で、家電業界を取り巻く関連産業からの受験者も増加している。

第1表 家電製品アドバイザー資格と同エンジニア資格の内容

	1.アドバイザー		2.エンジニア	
資格の区分	1)AV情報家電	2)生活家電	1)AV情報家電	2)生活家電
試験科目	①商品知識・取扱	①商品知識・取扱	①基礎技術	①基礎技術
	②CS・関連法規(共通)		②応用技術	②応用技術

注)アドバイザー試験のCS・関連法規は両資格共通の試験
補足)総合資格とは、アドバイザー、エンジニア共に上記資格区分、1)、2)の両方を取得したものに付与される

グラフ1.家電製品アドバイザー試験合格者推移



（出所：家製協）

■取得意欲旺盛。年３万人も視野に

17年度に実施された第33回と第34回の全国統一認定試験受験者数は2万３７４０人。18年度の第35回と第36回の受験者数は2万７２６３人。

森拓生センター長は増加要因を「資格取得の意欲は旺盛。ネット情報などで消費者の商品知識は高まり、それを上回る知見が販売従事者に求められ、各製品の技術的特徴や背景、原理を知り、適切なアドバイスができる知的応用力が販売第一線で必須能力となったため」と見ている。

さらに、受験者が住宅、電力・ガス、放送・通信、医療・介護、警備など、暮らし全般のサービス業に広がっているとし、「プロ中のプロを目指す人材も目立つ」と指摘する（19日付電波新聞1面、家製協認定資格制度の記事参照）。

業界の基盤となる人材を育成

業界ボーダーレス化で 関連産業からも

■家電製品アドバイザー、家電製品エンジニアともに変貌

第1表は家電製品アドバイザー／エンジニアの資格体系。「AV情報家電」「生活家電」の2資格区分がある。

アドバイザーでは①の「商品知識・取扱（資格区分ごとに別内容）」と、②の「CS・関連法規（両資格区分共通）」の試験科目がある。

エンジニアでは①基礎技術②応用技術の資格区分ごとに別内容の試験科目がある。

アドバイザー、エンジニアで2資格区分合格者は総合資格獲得となる。合格基準に達した科目は「科目合格」となり、その後2回の試験では免除される。

01年度にスタートした両制度。家電製品アドバイザーの合格者数と累計数は、グラフ1が示すような推移をたどっている。

認定証
家電製品アドバイザー
Gold grade
交付 平成25年11月01日
有効期限 平成30年10月31日
登録番号
生活家電 第A00A123456号
氏名 家電 花子
一般財団法人
家電製品協会
TEL 03-6741-5609

認定証
家電製品総合エンジニア
Platinum grade
交付 平成25年11月01日
有効期限 平成30年10月31日
登録番号
AV情報家電 第E001123456号
生活家電 第E00A123456号
氏名 家電 太郎
一般財団法人
家電製品協会
TEL 03-6741-5609

エグゼクティブ等級の認定証。２００点満点でアドバイザーは１８０点以上、エンジニアは１７０点以上が合格ライン

第2表 エグゼクティブ等級合格者数
（第25回試験から第36回試験までの累計）

	ゴールドグレード	プラチナグレード	計
アドバイザー	1,819	607	2,426
エンジニア	128	33	161
計	1,947	640	2,587

※単位：人、当制度を第25回試験から導入した

受験のための学習内容は、技術や取扱製品の進化、生活環境の変化に合わせ、毎年更新されている。

森センター長は「家電製品アドバイザーの累計合格者は増え続けている。受験者の目的が、資格を持つことからトップのプロになる自己挑戦へと変化している。製品にIoTやAIが取り入れられ、製品同士がクラウドでつながる時代に突入。消費者もしっかり情報武装している。購買行動も〝あの店で買う〟から〝あの人から買う〟に変化した。家電販売チャネルの多様化で隣接分野との競争も激しくなってきた」と変化の背景を話す。

家電製品エンジニアについては「より希少な存在になり、求められる知識がより深くなった。修理は基板交換で済むが、エンジニアでなければ解決できないワンストップの対応能力を身に付けることが課題。激しい環境変化が受験者の学習意欲を高めている」と分析する。

■プロ中のプロを目指すエグゼクティブ等級合格者も増加

家電製品アドバイザー／エンジニアの受験者で、特に優秀な成績の合格者には「エグゼクティブ等級（プラチナグレード／ゴールドグレード）」の特別称号を付与している（写真、第2表参照）。

その合格者累計は7月1日現在2587人に達しているが、全資格取得者のうち1・25%という狭き門。着実に増加傾向にあるが、家電業界以外では通信キャリア従事者の合格者が増えている。「第36回全国統一試験〝エグゼクティブ等級〟認定者発表」として、認定センターのホームページで閲覧できる。

家電製品アドバイザー／エンジニアの資格取得者が、ワンランク上のエグゼクティブ等級に再チャレンジできる「EXチャレンジ」も併設されている。

■継続学習もバックアップ

認定センターのホームページでは、資格保有者のための学習支援コーナーとして無償の「マイスタデイ講座」が設けられ、月替わりで、次のような教材を提供している。

①新製品・新技術を解説する「ここが要点!コーナー」②消費者目線で新製品などを紹介する「奈津子の眼」③最新の試験問題に挑戦する「腕試しコーナー」④保有資格のテキストを閲覧できる「お助けコーナー」。

スマートハウスの今が分かるテキスト

スマートマスター
スマート化する住まいと暮らしのスペシャリスト
2019年版
スマートマスター資格
問題&解説集
2019年版

認定証
スマートマスター
SMART MASTER
交付 2016年11月01日
有効期限 2021年10月31日
登録番号 第S160000001号
氏名 家電 太郎
一般財団法人
家電製品協会
TEL 03-6341-5609

新資格制度「スマートマスター」の認定証

■「この一冊でスマートハウスの今がわかる」と注目のテキスト

認定センターでは、これからの「住まい」と「暮らし」に関する幅広い知識の英知を集めた最先端カリキュラム「スマートマスター」を毎年更新発行している（写真、第1図参照）。

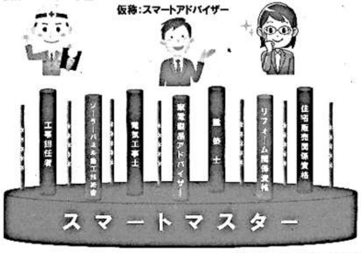
住まいでは①日本のエネルギー事情、COP21とエネルギー基本計画②住宅・建築の基礎③ZEHの構成要件（新築・リフォーム）④スマートメーターとHEMS⑤省エネ住宅ZEHを実現するための建材・電材（太陽光発電、蓄電池、エネファーム、エコキュート、換気扇ほか）を網羅。

暮らしでは①少子高齢化に端を発する日本の課題②ソサエティ5・0の実現に向けて（社会が変わる）③AI、IoTなどの革新的技術と各機器が生み出す暮らしの各種サービス（介護・見守り、ヘルスケア、セキュリティ、快適生活）④新たな暮らしのサービスを実現する機器・技術の基礎（IoT、AI、クラウド、ロボット、5G、各種家電機器）を網羅。

「これらの知識を身に付けたスマートマスターは６４２０人が資格を取得している。

〝スマートマスターのいるお店・オフィス〟は全国1千カ所を超えた。家電業界人材の母国語は家電製品アドバイザー／エンジニア資格。さらに広い、住まいと暮らしの世界で活躍するバイリンガルのスマートマスターも多数育成するのが私たちの使命」と、森センター長は決意を新たにしている。

第1図「スマートマスター」はスマートハウスに関する知識のプラットフォーム



（出所：家電製品協会）

2019年7月24日付　日刊「電波新聞」より